

令和7年度第1回平塚市下水道運営審議会 会議記録

(確認者 西田会長)

日 時 令和7年8月21日(木) 14:30～15:30

場 所 平塚市庁舎本館5階519会議室

出席委員 9人

西田会長、平塚会長職務代理者、諸伏委員、五十嵐委員
下野委員、池谷委員、高橋委員、西村委員、鈴木委員

事務局 11人

土木部 渋谷部長
下水道経営課 川嶋課長、後藤課長代理、内海課長代理、江口主管
高梨主管、石丸主査
下水道整備課 小川課長、山田主管、長谷川課長代理、大野課長代理

傍聴者 0人

議題

- (1) 会長及び会長職務代理者の選任
- (2) 平塚市下水道事業の概要について(資料1)
- (3) 平塚市下水道事業経営戦略 令和6年度進捗状況について(資料2-1、2-2)
- (4) 平塚市下水道事業経営戦略 改定の概要及びスケジュールについて(資料3)
- (5) その他

配布資料

- (1) 令和7年度第1回平塚市下水道運営審議会次第
- (2) 平塚市下水道事業の概要について(資料1)
- (3) 平塚市下水道事業経営戦略 令和6年度進捗状況報告書(資料2-1)
- (4) 令和6年度平塚市下水道事業公共下水道使用料の検証について(資料2-2)
- (5) 平塚市下水道事業経営戦略 改定の概要及びスケジュールについて(資料3)
- (6) 平塚市新下水道ビジョン
- (7) 平塚市下水道事業経営戦略
- (8) 平塚市下水道事業経営戦略【概要版】

○議題(1) 会長及び会長職務代理者の選任について、会長に西田委員、会長職務代理者に平塚委員を選任した。

○会議の公開について事務局から説明

これより会長による議事進行

会長

では、議題(2)の「平塚市下水道事業の概要について」事務局から説明をお願いいたします。

- － 議題（２）「平塚市下水道事業の概要について」を資料１に基づき事務局から説明 －

会長

ただいまの事務局の説明について何かご質問等はおありでしょうか。

（なしの声あり）

会長

次に、議題（３）の「平塚市下水道事業経営戦略 令和６年度進捗状況について」事務局から説明をお願いいたします。

- － 議題（３）「平塚市下水道事業経営戦略 令和６年度の概要について」を資料２－１、２－２に基づき事務局から説明 －

会長

ただいまの事務局の説明について何かご質問等はおありでしょうか。

委員

資料２－１の５ページ、「ヒト」のところで、労働生産性という管理指標があつて、目標値との差がマイナス３,７７４万７千円で未達成となっている。これは何から何を引いた数字ですか。

事務局

令和７年度の目標数値２億３,１００万円から令和６年度実績値１億９,３２５万３千円を引いた数字です。

委員

令和７年度はまだ途中で、結果が出てないのにマイナスというのはおかしくないですか。

事務局

現行の経営戦略では、中間年の令和７年度と、最終年度の令和１２年度の２か年の目標数値設定をしております。令和６年度の実績が直近である令和７年度の目標数値と比較して、どうだったかということで比較させています。

委員

単年度の目標値はないのですね。

事務局

現行の計画ではありません。

委員

その場合、４年度も５年度も６年度もずっと未達成になる。その未達成分が、だんだん増えていますが、何故なのか。

事務局

この指標は、営業収益をその収益に関わる職員の人数で除す方式で算出しているため、収

益につきましては下水道使用料ほか収益面全体の減少傾向がある一方で、職員数については育児休業から復職した職員など、年によって1人2人の増員があります。大きな増員ではありませんが、この指標に与える1人もしくは2人増というのが大きく反映することがあり、結果として未達成が続き、かつ年々その差が開く状況になっていると認識しております。

委員

わかりました。ただ、3年連続マイナスなどということがあったら、これは当然PDCAが回っていれば、新しいプランを出すなどアクションを起こさなくてはいけない。今年度、約半年が終わって、目標値の差は、令和7年度には減る見込みがありますか。差は小さくなる方向になっていますか。

事務局

今後、収益面については、下水道使用料が減少していく見込みである一方、職員数については下水道事業だけで増減の調整ができるものではないので、この4年間の実績を見つつ、今年度予定している経営戦略の改定の中で達成できるような目標数値に改める方向で検討しています。

委員

ならば結構ですが、要はPDCAを回すのは当然のことで、いかにそれをクイックに回すかだと思います。3年たっても変わらないのはナンセンスであって、収入が減っているのに人を増やすというのも一般的にはありえない話です。

これは進捗報告書ですからこれで結構だと思います。通常だったらこれに対してアクションプランがどこかにについているのでしょうか、私も今回が初めてなのでこれ以上は言えませんが、ぜひよろしく願いしたい。

会長

他に何かございますか。

委員

資料2-1の3ページ、有収水量と下水道使用料収入の数字で、使用料は減る傾向ということなのですが、令和5年度に上がっている部分もあります。この増えた要因はどのようなものか、分析されているものがあれば教えてください。

事務局

令和5年度については企業の使用水量が増加したため、令和4年度と比べて下水道使用料が増加しました。

委員

企業の使用水量の増加というと、新型コロナによる影響が大分緩和された、という感じで受けとめているのですか。

事務局

排水量は一般家庭の家事用と企業の事業用の2つの区分がございますが、令和5年度の事業用が令和4年度に比べまして、40万 m^3 ほど増えていることが大きな要因になっています。その理由としましては、令和2年度に事業用の排水量が、新型コロナの影響で経済活動が停滞したことなどにより、90万 m^3 ほど減少しました。それが令和3年度から少し回復を始め、令和3年度が前年度比18万 m^3 の増、令和4年度が13万 m^3 の増となっており、令和2年度に90万 m^3 減った部分についてまだ回復途上でしたが、令和5年度に40万 m^3 増というこ

とで大きく回復したことが、増加の要因ととらえております。

委員

次に資料２－２の３ページの表、決算と推計を見比べると、流域下水道の維持管理負担金について、例えば令和５年度の決算だと約１０億円ですが、令和５年度の推計だと約１５億円ということで大きな差が推計と決算で出ています。この辺りの推計と決算の乖離はどのようなところから生じているのですか。

また、資本費の企業債の支払い利息についても５年度決算が１億５千万円で、５年度の推計が約１億９千万円ということで乖離が生じていますが、全体的な数字の規模感からすると乖離が大きく見えたものですから、乖離の理由があれば確認させていただければと思います。

事務局

流域下水道の維持管理負担金は、県が運営している水再生センターへの流入水量によって各市町が負担しているものです。県に確認したところ、令和５年度と６年度の決算の比較では、物価高や人件費の増加により負担金額が増加していると聞いています。令和５年度の推計は、令和４年度に推計しましたが、動力費の高騰を加味して見込んでいます。しかし、実際にはそこまで上がらなかった、ということで推計と決算に差が出ているものです。

委員

ありがとうございます。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

資料２－１の３ページ目、一番上のグラフで、使用料が前年度に比べて０．１億円減少し、その下のグラフでは、純利益が２．５億円減少しています。ということは、支出が大きいということですね。

純利益が２．４億円あって、その下の預金残高が減ったというのはどういうことでしょうか。

事務局

原因は企業債の償還に関することで、基本的に企業債の返済は年に２回、９月と３月に行っていますが、令和５年度３月末の償還日が土日に当たってしまった関係で、本来そこで償還する支払いが令和５年度分ではなく、令和６年度分扱いになりました。それが約４億円でしたので、目減りする状態になっております。

委員

わかりました。ありがとうございました。

会長

その他いかがでしょうか。それでは私から質問させていただきます。

資料２－２の３ページ目、維持管理費について。維持管理費自体が上がっているという説明はありましたが、特に極端に上がっているのがポンプ場費だと思います。この金額が令和５年度と比べて大きく上がった理由を教えてください。

事務局

ポンプ場費について、令和5年度決算から令和6年度決算見込みにおいて上がり幅が大きくなっています。こちらにつきましては、令和6年度はポンプ場の大規模な修繕を複数行ったため、例年にない経費として前年度に比べて約9千万円増えています。

会長

これはイレギュラーだということですね。わかりました。ありがとうございます。

その他いかがでしょうか。ないようですので、これで議題（3）の「平塚市下水道事業経営戦略令和6年度進捗状況について」を終了させていただきます。

次に議題（4）の「平塚市下水道事業経営戦略 改定の概要及びスケジュールについて」事務局から説明をお願いいたします。

－ 議題（4）「平塚市下水道事業経営戦略 改定の概要及びスケジュールについて」を資料3に基づき事務局から説明 －

会長

ただいまの事務局の説明について何かご質問等はおありでしょうか。

委員

9ページの収益的収支で、数値目標に計画期間中の黒字、建設改良のための積立1億円とあります。とても大事なことだと思いますが、逆に1億円で足りるのか、ということと、また、1億円の算出基準はどこから出てきていて、それはいつからどのように使われていくのか、といったプランニングはあるか教えてください。

事務局

1億円の明確な算出根拠というものはありませんが、現況の利益等を見込んだ中で、将来的に多少でも蓄えをしていかなければならないだろうということで始めたものです。

当面は現行の経営戦略ではこの1億円を積み上げていき、令和20年度以降のところで赤字になるという見通しがございますので、その辺りまでは貯めていって、それ以降の企業債の償還や建設改良費の一部に充てていこうと考えています。

委員

運用はされるのですか。

事務局

令和6年度から5年償還の地方債、神奈川県が発行しているグリーンボンドを購入しており、令和7年度も同額の1億円を予算計上しているため、今後債券を購入する予定です。

委員

はい。わかりました。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

5ページの現行の投資計画の投資規模について、経営戦略の冊子と見比べると、全体の投資の規模感はわかるのですが、投資したことによってどのようなものがどう変わっているの

か具体的な事例、例えば、浸水対策として何ミリだった地区がこうなりますというように、総合浸水対策や耐震長寿命化にこういった具体的な数値は載っていて、経営戦略上は大きな規模感だけ載せるという見せ方なのかなと思います。ただ、経営戦略が全体の財政も含めてまとまっている以上、やはりわかりやすさ、という観点を考えると、市民の皆さんに173億円を投資したことによってこれだけ大きく変わったんですよ、という成果が見えるといいのではないかと感じました。

事務局

今年度の戦略の改定において、ご意見を検討したいと思います。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

資料3の11から14ページを見ると、収入の減少が明らかですよ。たしか1年ぐらい前だと思いますが、真鶴町が150%値上げをやってニュースに取り上げられていました。

市民向けに、こういうことで困りそうだからいきなり上げます、ではなく、徐々にこういうところにお金がかかるんだよと伝える必要があると思います。お金が少なくなったからといって維持費を減らしたら、事故になりますよね。そうなったらそれ以上のお金がかかることが考えられます。

必ずしも値上げをしようということではないですが、値上げせざるを得ないのであれば、ぎりぎりまで我慢せず、あらかじめこうなりそうですからといった広報でも出したらどうでしょうか。

事務局

広報紙のお話についてですが、確かに収入が減る状況にあっても、必要な事業はやっていかなければならない、という状況です。市民に必要な周知を図るため、令和5年度から広報紙を発行しており、今年度も年末か年明けには発行しようと考えています。内容については、今お話のあった、収入減と費用増も含めてお伝えしたいと考えています。

事務局

下水道独自の広報紙を令和5年度から年1回発行しておりますが、今後皆さんに経営が厳しい状況に直面していることを感じてもらえるようなことは必要だと思っていますので、それを今年度発行の広報紙に載せていきたいと考えています。

委員

今後何十年かの間に、老朽化する設備ばかりだと思うのですよ。それをその時に一気にやろうとしてももう財源がない。

事務局

管渠の老朽化の状況の表を見ていただくと、この50年という耐用年数の中で、そのピークがこれから来ます。それは10年後ぐらいから来ますが、先ほどの建設改良のための積み立てを、まずは毎年1億円ということではじめて6年目ぐらいになります。それを見据えて始めましたが、それも今後どうしていくかということも考えないといけない状況にあります。一方で収支のバランスも考える必要があり、積み立てるお金の確保も考えなければなりません。その場合、将来、使用料を改定するとしても、そこまで余裕があるかどうかという懸念もありますので、その辺りのバランスをとりながら、少しでも準備できることは進めて、収支の均衡を図っていききたいと思っています。

委員

耐用年数については、よく聞きますが、確実な保証ではない。使用状況によって変わってくる。

事務局

以前のように50年たったら壊して新しいものを作るという時代でもなくて、今の管を更正して延命するという考え方もでてきているので、その辺りも見据えながら、経営戦略の中で支出の部分と収入の部分をうまくバランス取りながらやっていく、ということです。

委員

八潮市の事例を見ると、平塚でもそんな状況になるのではないかな。そうってからでは遅い。

事務局

基本的には先ほど紹介した計画の中で、今おっしゃった八潮市の事例などは耐震長寿命化の関係で考えていますし、去年の台風の例もあるので浸水対策もしっかりやっていかなければいけないということです。色々な方法がある中で、それについてもバランスをとりながら、ということではなかなか大変ではありますが、何とか必要な事業を推進していきたいと思っています。

会長

その他いかがでしょうか。

委員

経営戦略の資料3を見ると、これは値上げはいずれしなければいけない、という説明のように受け止めています。恐らくそのつもりで書かれたかと思いますが、人口が減るとか、物価が上がるとか、お金を出す方からすると後ろ向きの理由ですね。何もいいことはないけど、とにかく上がるからお金を出してくれ、という感じで、市民の方からするとこの理由だと積極的にお金を出しづらいのではないかと思います。

私は今の状況、埼玉県のようなニュースがたくさんあって、「耐震化とか長寿命化対策のために、さらに今までの計画よりも加速させます。加速させるから値上げします。市民の人にもこれからの安心を勝ち取るためにお金を出してほしい。」ということであれば、前向きな感覚でお金を出せる、こんないいことがあるからお金を出すのは仕方がない、と思ってもらえるのではないかな。

人口が減るから理解してくれ、と言われても自分に何の利益もないですから、何か利益があるような形で説明をして値上げしていく。そのうちには値上げするということではなくて、本当はもう来年から値上げして、長寿命化対策など、市民の人が見えるような形で工事をしていって、そのために使用料が上がります、払ってもらいます、そうすると安心して生活ができます、と伝える必要があるのではないかな。そうすると、10年後かに寿命が来るところを前倒して使えるので、工事が進み、その時に一気に無理してやらなくても、前倒しすればその分いいのかなと思います。

値上げしていると、その分人口が減っていても大丈夫なようになるのではないかなと思ってもらえる形で、値上げするときの説明で人口が減っていくから仕方がない、これだから仕方がないではなくて、もっとポジティブな形で説明してはどうか。いずれ値上げしなければ絶対いけないだろうということは書かれているので、そういうような説明で値上げしてもらった方が、市民の人はお金を出しやすいのではないかなと感じました。

事務局

先ほどご紹介をしました下水道独自の広報紙につきまして、今年度は長寿命化対策もテーマにすることを検討しています。先ほどご説明した下水道の3つの役割、まちを清潔にする、浸水から守る、身近な環境を守るという、我々の生活に必要不可欠な役割を担っている、この大切な下水道の長寿命化に取り組んでいく必要があること、またそのためには相応の財源が必要となるということを周知したいと思います。また本市は、前回の下水道使用料金の改定が平成20年度であり、すでに17年ぐらいいっている状況ですので、その辺りのこともご紹介しながら、市民の方に厳しい経営状況にあること等を含めて周知していきたいと考えています。ご意見ありがとうございました。

会長

いかがでしょうか。それではこれで議題（4）の「平塚市下水道事業経営戦略改定内容及びスケジュール」について終わらせていただきます。
次に、議題（5）の「その他」について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

議題（5）「その他」について、先ほど議題（4）の中で下水道事業経営戦略の改定のスケジュールをお伝えしましたが、今年度の下水道運営審議会の開催の予定についてご説明します。経営戦略の改定に向けまして11月と、1月または2月の開催を予定しています。日程が決まりましたらお知らせします。

会長

ただいまの事務局の説明について、ご質問等はおありでしょうか。
それでは他にご質問等もないようでございますので、議題（5）の「その他」を終わらせていただきます。
最後に、各委員の皆様方から何かありますでしょうか。
（特になし）
委員の皆様には、会議の円滑な議事進行にご協力いただきましてありがとうございます。進行を事務局にお返しいたします。

事務局

会長には議長をお務めいただき、ありがとうございます。
以上をもちまして、令和7年度第1回平塚市下水道運営審議会を閉会いたします。
委員の皆様にはお忙しいところご出席をいただきまして誠にありがとうございました。